



涼しい秋風にのって、皆さんの合唱練習の歌声が図書室にも届き、芸術の秋を感じます。読書にも最適な季節なので、たくさんの本と触れ合い、素敵な時間を過ごしてみませんか。

10月30日は、初恋の日



1896年（明治29年）のこの日に、島崎藤村が『文学界』46号に『こひぐさ』の一編として「初恋」の詩を発表したことが由来です。

♡『初恋料理教室』 藤野恵美 著

京都にある小石原愛子先生の料理教室には、男性限定の日があり、そこには四人の男性が通っています。愛子先生の美味しいレシピと四つの温かい物語にほっとします。心が温まる話です。

♡『中学生までに読んでおきたい日本文学6 恋の物語 -初恋 尾崎翠-』 松田哲夫 編

僕が受験生だった夏の出来事です。ある漁村で夏祭りがあり、皆で盆踊りをしていると、男装をした女性に目がとまります。美しいその女性に恋をしますが、暗がりから出た女性を見て驚きます。

♡『恋するいきもの図鑑』 今泉忠明 監修

動物にも、人間と同じように恋を実らせるための求愛の仕方が色々あります。動物の種類のみだけあるといっても過言ではないので、楽しいイラストと一緒に、お楽しみください。

今月は黒(ブラック)の書名本を紹介

『赤川次郎ミステリーコレクション 19 黒鍵は恋してる』 赤川次郎 作

高校一年の米田あかねは、ある日の夜ベランダから向かいのマンションの部屋を見てみると、カーテン越しに男が女性に飛びかかるのを見ました。次の日、女性は殺されていたのです。

『黒いお姫さま -ドイツの民話-』 上田真而子 訳

昔、子供のいない王様とお妃様がいました。悪魔の子でもいいので子供が欲しいと願うと、女の子が生まれましたが、15歳になったら死ぬ運命にありました。姫を助ける方法はあるのでしょうか。

『超巨大ブラックホールに迫る -「はるか」が創った3万kmの瞳-』 平林久 作

電波天文衛星「はるか」は、1997年に打ち上げられた史上初のスペースVLBIという新しい観測法を実現した天文衛星です。「はるか」が生まれる前から、ブラックホールをとらえるまでの16年間の物語です。



この本、読んでみませんか？ (図書委員 高橋彩さんおすすめ)

『きとききに届くと信じて』 吉富多美:作

物語は南條佐奈のFM番組に届きたいじめ予告や自殺予告から始まります。これがSOSだと気付いても、佐奈は何もできません。ある日、佐奈は書店で二人の少女を見かけ、いじめの気配を感じます。そこで、番組を通じて語りかけます。登場人物一人ひとりの気持ちに寄り添って読むと、それぞれの苦しさや悲しさがよく分かりました。「やさしさの大切さ」と著者からの「生きて」というメッセージを強く感じました。

